



2024年2月期 業績説明資料

(2023年3月～2024年2月)

株式会社メタリアル (東証グロース : 6182)



2024年4月15日

**AI事業が受注・売上・利益で過去最高
来期は一気に成長加速へ**

連結前年比：売上97.3% 営業利益144.8%

AI事業前年比：売上105.0% 営業利益128.7%

メタバース事業への当期投資：229百万円

メタバース事業を除いた営業利益：975百万円

2024年2月期 連結損益計算書

(単位：百万円)

	2023年2月期	2024年2月期	前年同期比	2023年2月期 (メタバース 事業除く)	2024年2月期 (メタバース事 業除く)	前年同期比
売上高	4,292	4,177	97.3%	4,281	4,174	97.5%
売上原価	1,506	1,357	90.1%	1,506	1,357	90.1%
売上総利益	2,785	2,819	101.2%	2,775	2,817	101.5%
販売費及び 一般管理費	2,270	2,073	91.3%	1,838	1,841	100.2%
営業利益	515	746	144.8%	936	975	104.1%
経常損益	516	803	155.5%			
親会社株主に 帰属する当期 純利益	29	534	—			

2024年2月期 販管費 前年同期比較

(単位：百万円)

	2023年2月期	2024年2月期	前年同期比	2023年2月期 (メタバース 事業除く)	2024年2月期 (メタバース 事業除く)	前年同期比
販売費及び 一般管理費	2,270	2,073	91.3%	1,830	1,838	100.5%
採用・人件費	1,173	1,163	99.1%	1,062	1,056	99.4%
広告費	210	141	67.1%	185	140	76.0%
支払手数料	114	126	110.4%	106	119	112.1%
販売手数料	116	114	97.8%	116	114	97.8%
ネットワーク費	126	145	114.8%	121	135	110.9%
研究開発費	264	123	46.8%	109	103	94.6%
業務委託料	150	155	103.4%	43	79	180.1%
その他	113	104	92.2%	84	90	107.1%

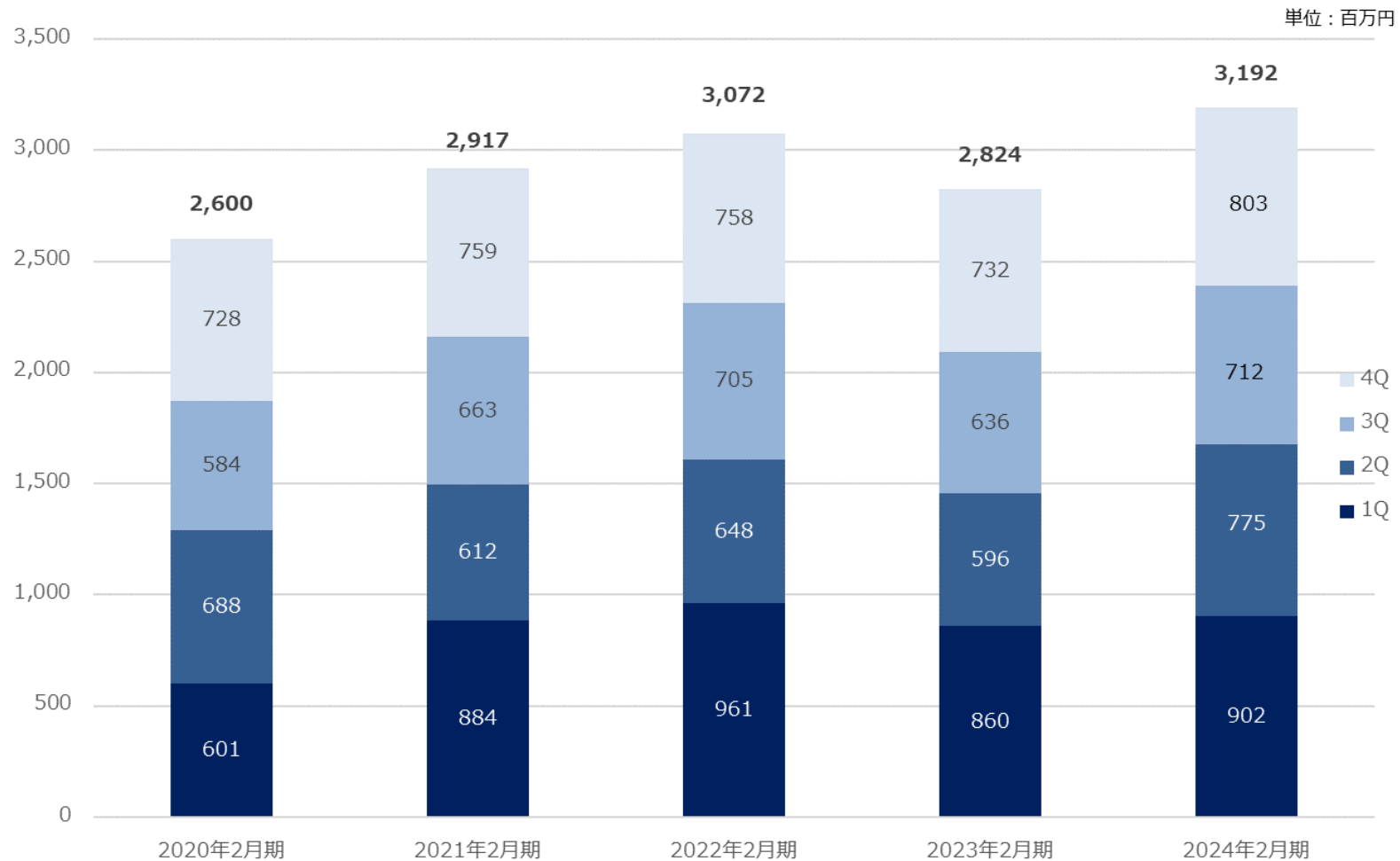
2024年2月期 AI事業 前年同期比較

(単位：百万円)

	2023年2月期	2024年2月期	前年同期比
売上高	2,911	3,057	105.0%
営業利益	727	935	128.7%

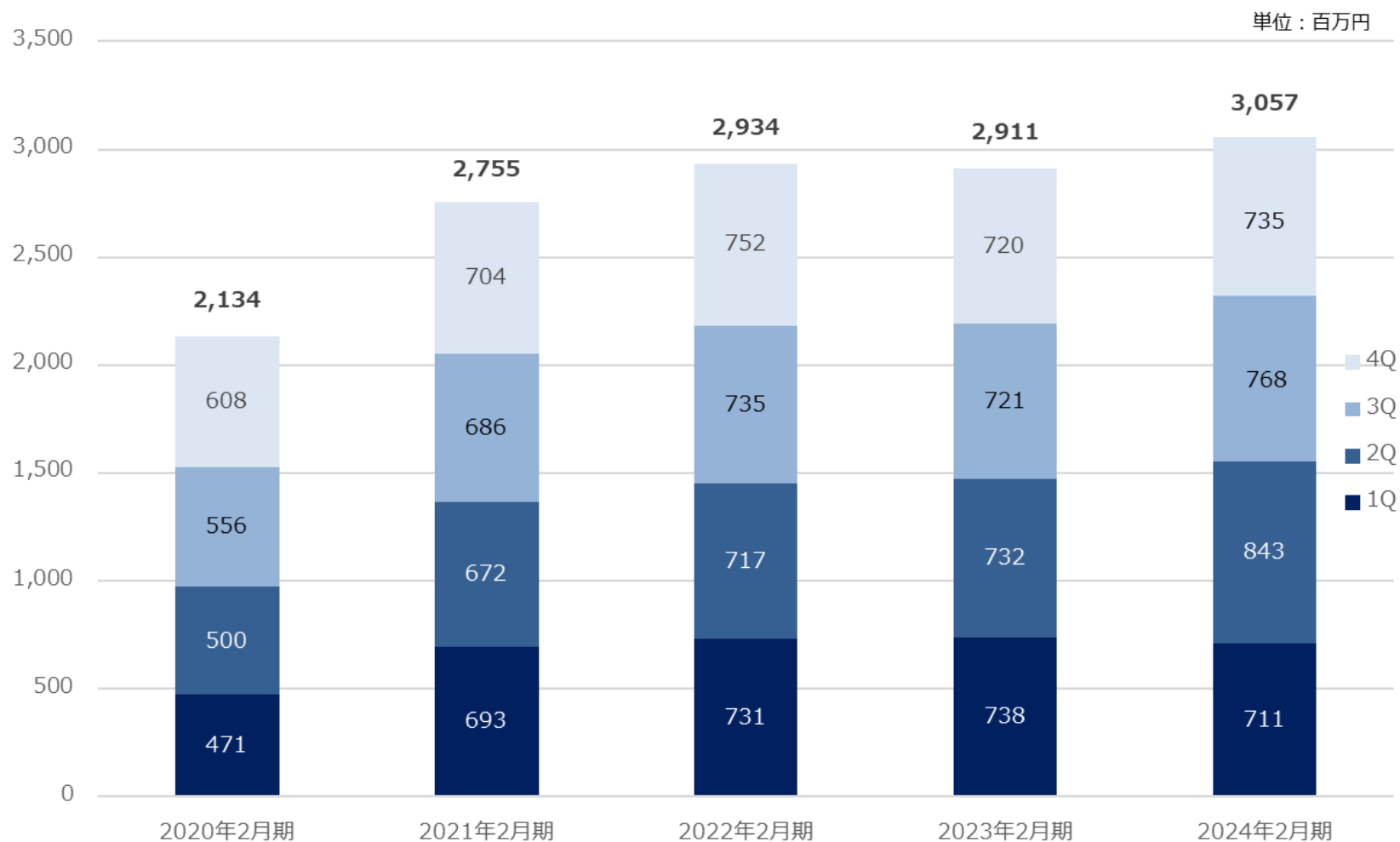
- ・売上高は対前期比で+5.0%となった。
- ・営業利益については減価償却費用縮小等の影響により+28.7%となった。

AI事業 受注高推移



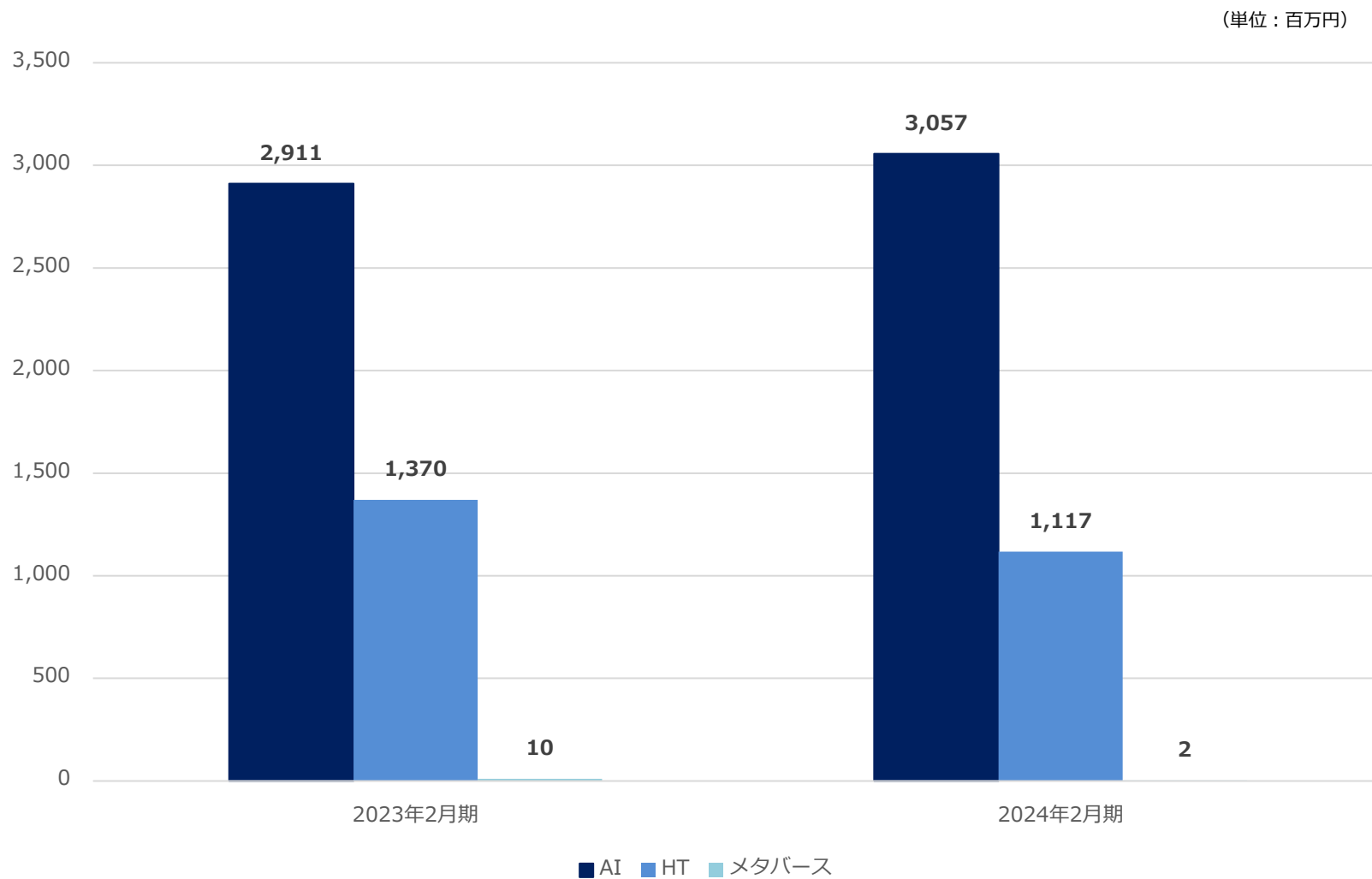
- ・ 今期1Qまでは「MT事業」、2Qより「AI事業」と改名。
- ・ 受注ベースでの売上推移（財務諸表上の売上ではない）。
- ・ 外部への販売数値のみ（グループ内部取引による売上を除く）。

AI事業 売上高推移

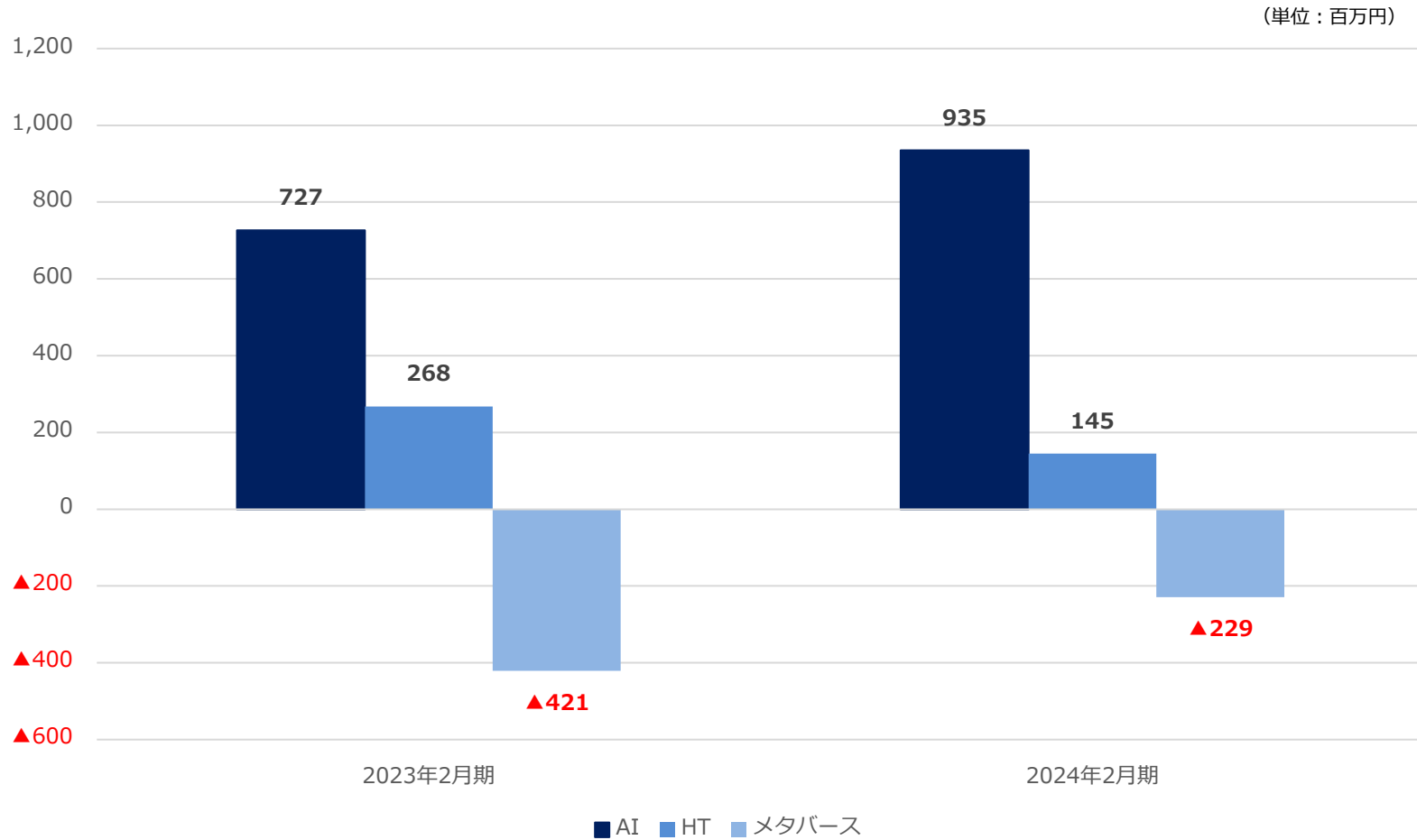


- ・ 今期1Qまでは「MT事業」、2Qより「AI事業」と改名
- ・ 外部への販売数値のみ（グループ内部取引による売上を除く）
- ・ 23年2月期についても事業セグメントの利益（損失）の測定方法の変更を反映した数値で比較

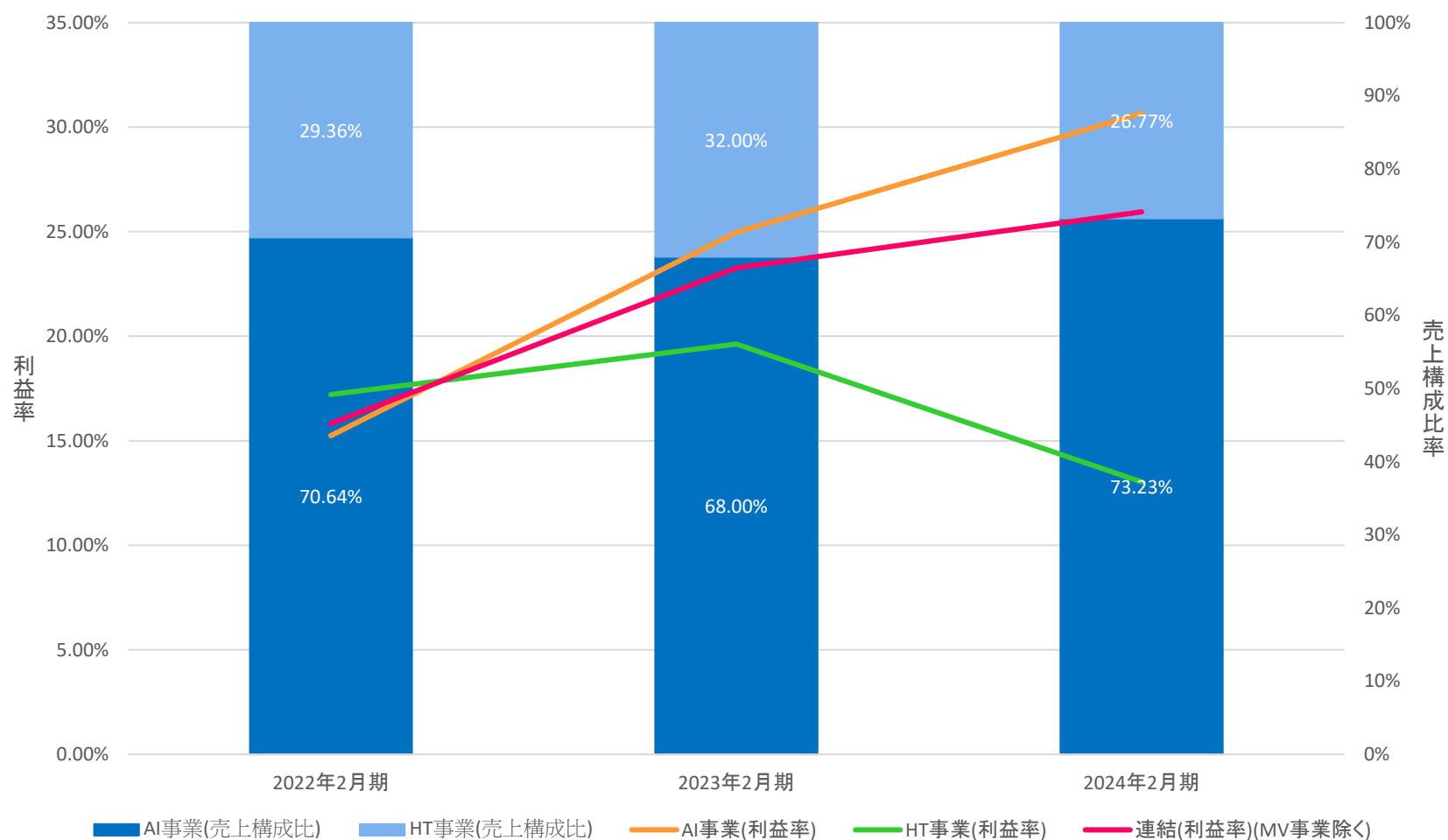
セグメント別売上高 前年同期比較



セグメント別営業利益 前年同期比較



利益率が上昇している理由



AI事業がキャッシュカウとしての費用最適化により利益率が改善するとともに全体のなかでのAI事業の売上構成比が高まった結果、連結利益率が上がった。



成長戦略（「Metareal AI」プロジェクト）

専門文書AI

によるDX推進事業への集中

医薬・製造・法務・特許・金融 等
分野ごとに必要となる
「ドキュメントマネジメント × AI」

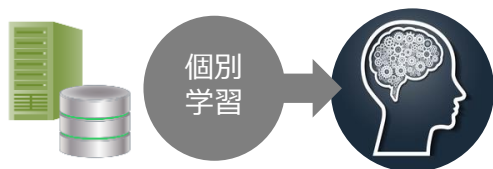
ロゼッタは何故、生成AIを用いた専門文書AIサービスを構築できるのか

AI自動翻訳と生成AIのベースとなるアーキテクチャは同じである

*LLM = Large Language Models

今までの「自然言語処理モデル」

少量のデータで個別タスクを学習



教師データを
ディープラーニング



AI自動翻訳における
自然言語処理モデル

Transformer

GPTなどの「大規模言語モデル（LLM*）」

分散表現とセルフアテンションで、同時に複数タスクを処理



- ・大規模データ
- ・計算量の大規模化
- ・パラメータ数の大規模化

人間に近い流暢な会話や
高精度な処理の実現

LLM
(大規模言語モデル)

Transformer



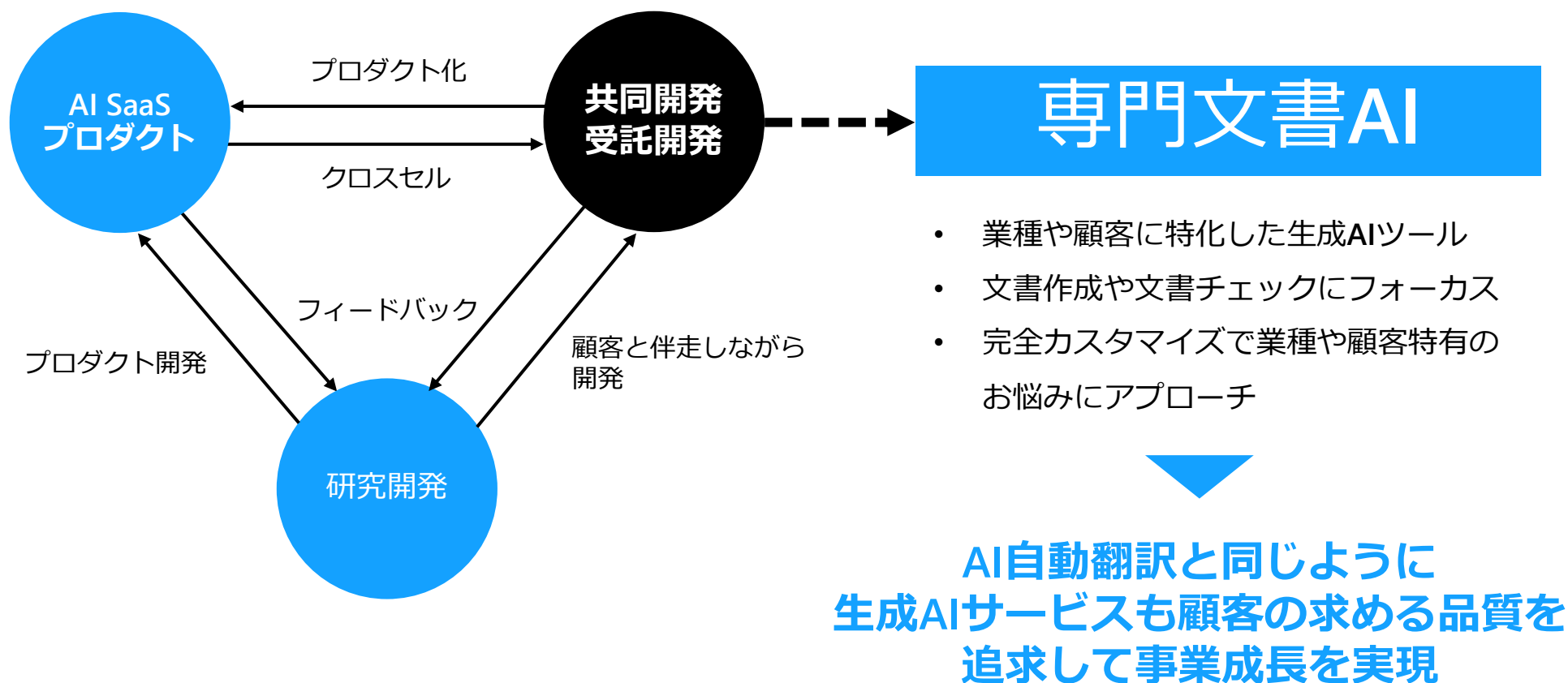
+ 要素技術 = 様々な生成AI
ソリューションの開発

- ・資料生成AI
- ・文章校正AI
- ・文書要約AI
- ・大容量プロンプトAI
- ・顧客要望に応じたAI
- ・オンプレ環境でのAI運用構築 等

AI自動翻訳の開発においてモデルを作り続けてきたロゼッタだからこそ生成AIを事業化することが可能


ロゼッタの専門文書AIサービスの方向性

顧客の求める品質を追求する開発



専門文書AIサービスにおけるロゼッタの強み

モデル開発からフロントエンド（営業・サポート）まで一気通貫で対応

<p>1 AI自動翻訳の パイオニア</p>	<p>AI自動翻訳分野において、いち早く技術的ブレイクスルーを果たし業界を牽引</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6,000社以上の顧客の機密データを安全に取り扱ってきた実績 ・ AI自動翻訳エンジンの開発において膨大なデータセットを保有 	
<p>2 LLMの開発 (大規模言語モデル)</p>	<p>LLM（大規模言語モデル）の自社開発が可能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 膨大なデータセットと、精度の高いカスタムエンジンやLLMのベースモデルを開発する技術を保有 ・ お客様のセキュリティポリシーに応じたLLMの選定・ご提案が可能 	
<p>3 オンプレAIの ロゼッタ</p>	<p>LLMを自社開発できるため、オンプレ環境における生成AIサービスの提供が可能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本国内やお客様の社内という閉域に物理的サーバを用意しLLMを置くことが可能 ・ AI自動翻訳における「オンプレ型国内サーバー」で膨大な顧客データを安全に取り扱ってきた実績 	
<p>4 高度なAI開発技術</p>	<p>ロゼッタ開発チームの高度な技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ AIが最適な答えを返すように「RAG」と呼ばれるフレームワークでハルシネーションを抑制 ・ CoTプロンプティング技術において複数のプロンプトを組み合わせ、複雑な結果を抽出することが可能 	
<p>5 スピード</p>	<p>決断と実行におけるメタリアルグループの圧倒的なスピード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生成AIサービス事業開始の2023年4月から約4か月間で、多くの製品を開発・リリースした実績 ・ スピードが早い故に、他社に先んじて膨大な知見を蓄積 	

専門文書AI

- NVIDIAカンファレンス
- 整合性チェッカー
- ラクヤクAI
- キャラクターAI翻訳エンジン
- オンプレ音声認識
- 四季報API
- MAI LLM 2

JellyBeans.ai

NVIDIAカンファレンスに登壇

NVIDIAカンファレンスにて、当社の推進する専門文書AIの多様な事例を紹介。AIによる事業活用の可能性を広く示しました。

NVIDIA注目の専門文書AI

AI翻訳事業で培った知見を活かし、企業の生成AI導入を推進する当社の取り組みをきっかけとして、世界的AI企業であるNVIDIAのカンファレンスに参加。専門文書AIの多様な事例を紹介し、AIによる事業活用の可能性を広く示しました。

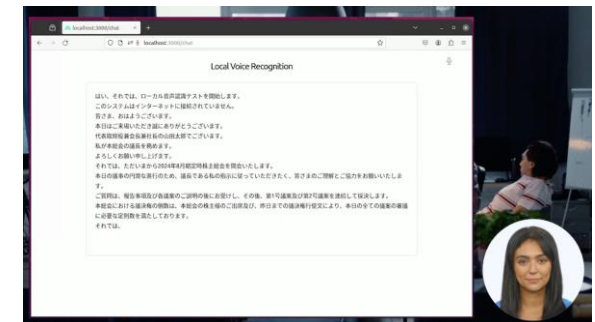
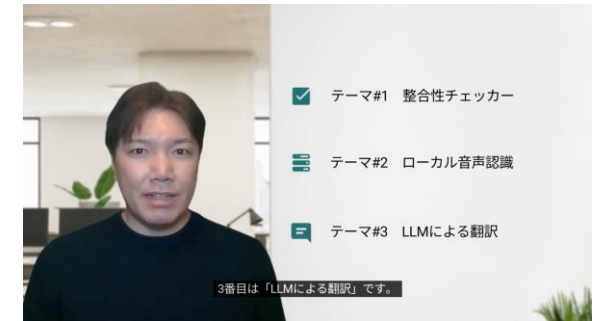
専門文書AI事例を世界発信

整合性チェッカー、キャラクター性を含んだ翻訳AI、オンプレミス音声認識エンジンなど様々な事例を取り上げ、AIによる専門文書処理の可能性を強調。これまで当社がAI翻訳事業で培ってきた知見と技術を応用し、企業の生成AI導入を支援する中で生み出されたものです。

AI翻訳から専門文書AIへ

当社は、AI翻訳のノウハウと技術を活かして企業の生成AI導入を総合的に支援しています。特に、各企業の業務や取り扱い文書の特性を深く理解し、最適なAIモデルの開発・調整を行っています。

- ・ 整合性チェッカー：文書内の情報の整合性を自動的に検証するシステムを構築
- ・ 翻訳AI：単なる言語変換を超え、ニュアンスやキャラクター性を保持する高度な翻訳を実現
- ・ 音声認識エンジン：企業内のセキュリティを確保し、高精度な音声認識を可能にするオンプレミス型のシステム提供 等



当社の整合性チェッカーは、LLMと顧客課題解決力を融合。膨大な文書管理に苦慮する企業の作業効率を飛躍的に向上し、文書管理のDXを加速します。

高速整合性検証 作業効率化



ターゲット文書と大量の参照文書の間での整合性をLLMで双方向に吟味することで、様々な検証作業の自動処理が可能に。

特定文書と参照文書群の整合性を高速検証する「整合性チェッカー」を開発。製薬、建築、土業など、膨大な文書管理に悩む企業の課題解決を目指しました。

整合性チェッカーは、LLM活用と共に、当社の顧客課題解決力を発揮して実現。先進技術と現場知見の融合により、複数人で数日かかる作業を最短1分で完了。並列処理で更なる効率化を図ります。

文書管理を変革しDX推進

文書管理のDXを加速する画期的な技術により、膨大な時間とコストを費やしてきた整合性検証を自動化します。作業効率の飛躍的向上、コスト削減と人的ミス防止、大規模検証の実現により、文書管理の質を格段に向上します。確認前処理の用途でも大きな成果が期待でき、企業のDXを強力に推進。文書管理のあり方を大きく変革する重要な技術となります。

AIの力で煩雑な書類チェックから解放。AIが開く、文書管理DXの新時代へ。

検証状況の出力

検査対象PDF

自動翻訳T-400グループ企業利用に関する覚書

株式会社〇〇〇〇（以下、「甲」という）と株式会社××××（以下、「乙」という）は、甲が2020年3月18日に利用申込をした乙が運営する自動翻訳サービス「T-400」（以下、「本サービス」という）の利用について、以下の通り覚書（以下、「本覚書」という）を締結する。

第1条 目的

本覚書は、本サービスの利用規約の規定にかかわらず、乙が、本サービスの契約主体である甲に対し、株式会社〇〇〇〇による本サービスの利用を認めることを目的とする。

第2条 利用規約

本サービスの利用規約は、株式会社〇〇〇〇による利用についても適用されるものとする。

第3条 効力発生日

1. 本覚書は2024年3月31日より効力を発するものとする。
2. 前項にかかわらず、甲および乙は、相手方に対し、3か月前に書面による通知をすることにより、本覚書を解除することができる。

第4条 損害賠償

乙は、甲または株式会社〇〇〇〇が本覚書に違反した場合、甲に対し、当該違反により生じた損害について損害賠償請求することができるものとする。

第5条 管轄

本覚書に関して生じた一切の紛争については、東京地方裁判所を第一審の専属的合意管轄裁判所とする。

第6条 準拠法

本覚書は、日本法に準拠し、日本法に従って解釈されるものとする。

製薬企業の審査文書や論文の整合性確認を強力にサポートする文書処理AIを開発。製薬業界特有の膨大な管理負荷を大幅に削減し、生産性向上を実現します。

LLM×製薬 高精度整合性検証

製薬業界に特化

製薬業界に特化したサービスのため、創薬における文書作成など製薬業界特有の業務に対応。御社内のデータはもちろん、業界の専門用語やルールにも対応し、正確なアウトプットを実現します。

御社専用のセキュアな生成AI環境

御社専用の生成AI環境をご提供。業界の基礎情報に加え社内の膨大な資料やデータを活用することで、御社内の知見を統合的に分析し集約されたアウトプットをセキュアな環境で実現します。

正確かつスピーディなアウトプット

これまでにかかっていた大量の時間とリソースを大幅に削減しながら、膨大なデータを元にした正確なアウトプットを実現します。

当社の**整合性チェッカーの技術を応用**し、LLMと製薬業界知見を融合。審査文書や論文に特化した高精度の整合性検証を実現し、大量の文書を高速処理します。従来手作業で行われてきた審査文書や論文の整合性確認を自動化することで、研究開発や薬事申請といったコア業務により多くのリソースを割くことが可能になります。

「整合性チェッカー」事業活用例：
審査文書・論文等の膨大な整合性チェックを自動化



「ラクヤクAI」とは

社内のあらゆる文書やデータ、社外で公開されている論文やルールを活用して、文書や資料の自動生成、文書チェック、モニタリングなどを可能にし、圧倒的な業務スピードの改善を実現するシステムです。

文書・資料の自動生成

治験関連文書や薬剤プロモーション資料などを自動生成します。

整合性チェック

作成した資料のクオリティチェックを実施。ヒューマンエラーを無くし作業時間を大幅に軽減します。

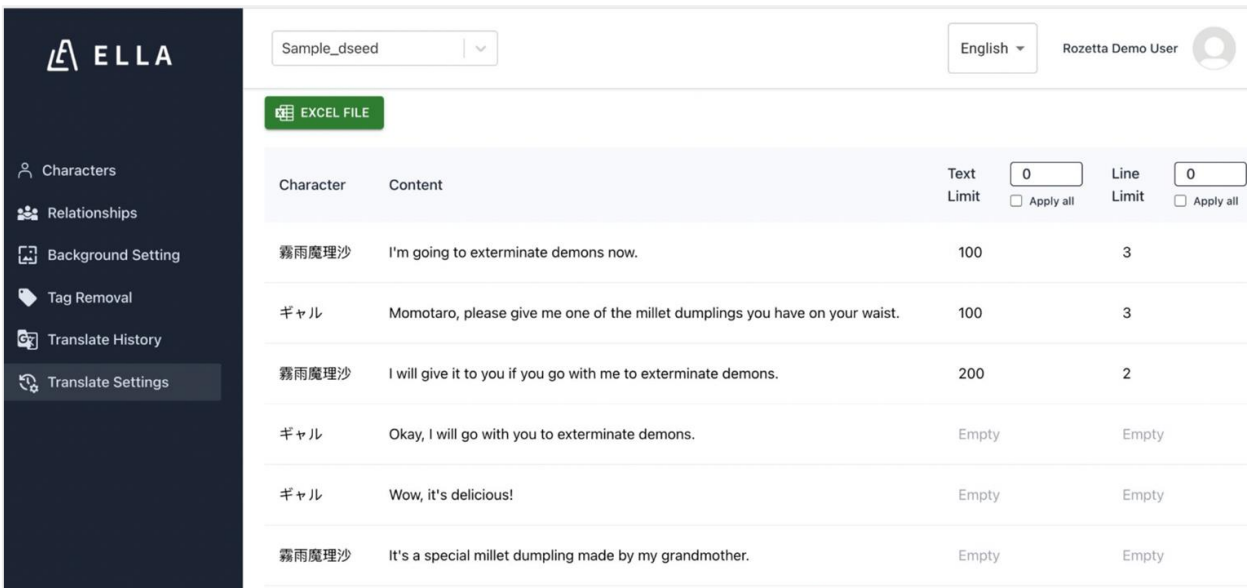
講演内容モニタリング

講演資料や講演音声のモニタリングを行い、適用外表現を自動でチェックします。

薬剤情報やナレッジの検索

薬剤の情報やナレッジを調べると検索結果として返します。

高精度クリエイティブ翻訳キャラクター翻訳AI「ELLA」を株式会社デジタルハーツ様と共同開発



(株) デジタルハーツ様とロゼッタで共同開発した新AI翻訳エンジンは、長年のAI翻訳開発経験と生成AIを融合したクリエイティブ翻訳AI。

参考記事リンク

<https://rozetta-square.jp/news/7258/>

実際のキャラ翻訳例

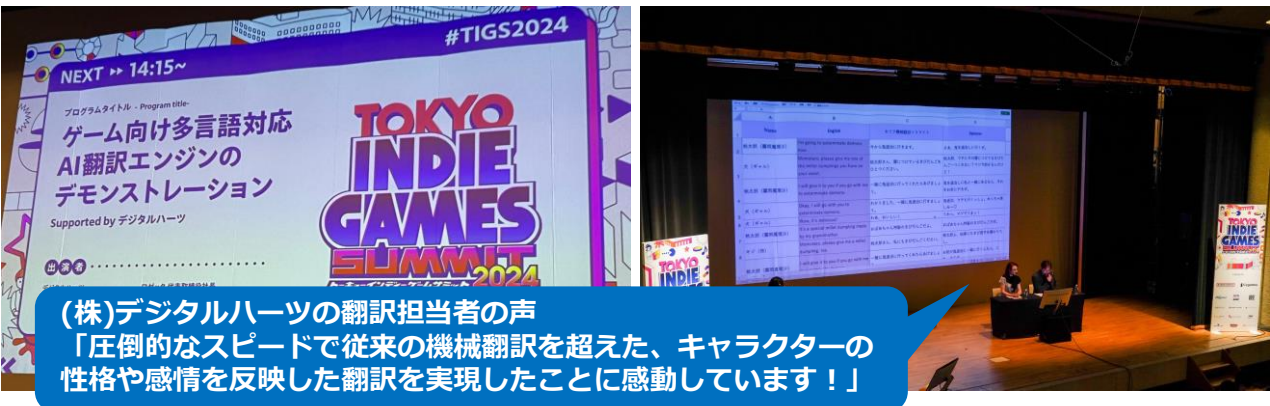
英語原文：ゾンビ
I look forward to working with you in the future.

日本語訳文
ウォレ、ウォマエと..ガッ..
これからも..モオン..仕事..
ヴァッ..楽しみ..ンッ！

日本語原文：魔王
これからもよろしくお願ひします。

英語訳文
Bow to the future where you shall grovel at my feet, for our fates are yet to be entwined.

ELLAは、ロゼッタのAI翻訳ノウハウと生成AIを融合し、膨大なキャラクター対話データから学習。文脈に応じた語彙選択や話し方の変化を再現します。従来の機械翻訳では不可能と思われていたクリエイティブ分野で、キャラクターの性格や感情を反映した翻訳を実現しました。



(株)デジタルハーツの翻訳担当者の声
「圧倒的なスピードで従来の機械翻訳を超えた、キャラクターの性格や感情を反映した翻訳を実現したことに感動しています！」

当社のオンプレ音声認識エンジンは、ネットワーク接続なしでローカルPCのみで高精度認識を実現。企業ニーズに合わせたカスタマイズで、機密情報を扱う会議での活用を可能にします。

安全・高精度のオンプレ音声認識

当社の高度な音声認識技術をベースに、ネットワーク接続を必要としないローカルPCで動作する設計を実現。PC単体での高精度認識に加え、企業ごとの用語などにもカスタマイズ可能。機密情報を扱う環境での安全かつ柔軟な活用を可能にしました。

機密会議にも、AIによるDXを

オンプレ音声認識エンジンは、AIの活用範囲を大きく広げる革新的な技術として、情報漏洩リスクから活用が難しかった機密情報を扱う会議などの音声認識を可能にし、議事録作成の効率化や会議の生産性向上に寄与。

さらに企業ニーズに合わせた高いカスタマイズ性がAIの柔軟な活用を促進し、音声入力インターフェイスの革新によりPCでの文書作成やデータ入力の利便性を大きく向上。ビジネスのDXを加速する重要な一手となります。

オンプレ音声認識が開く、安全なAI活用の扉。
機密情報も安心、ニーズに合わせて柔軟に。

参考動画リンク

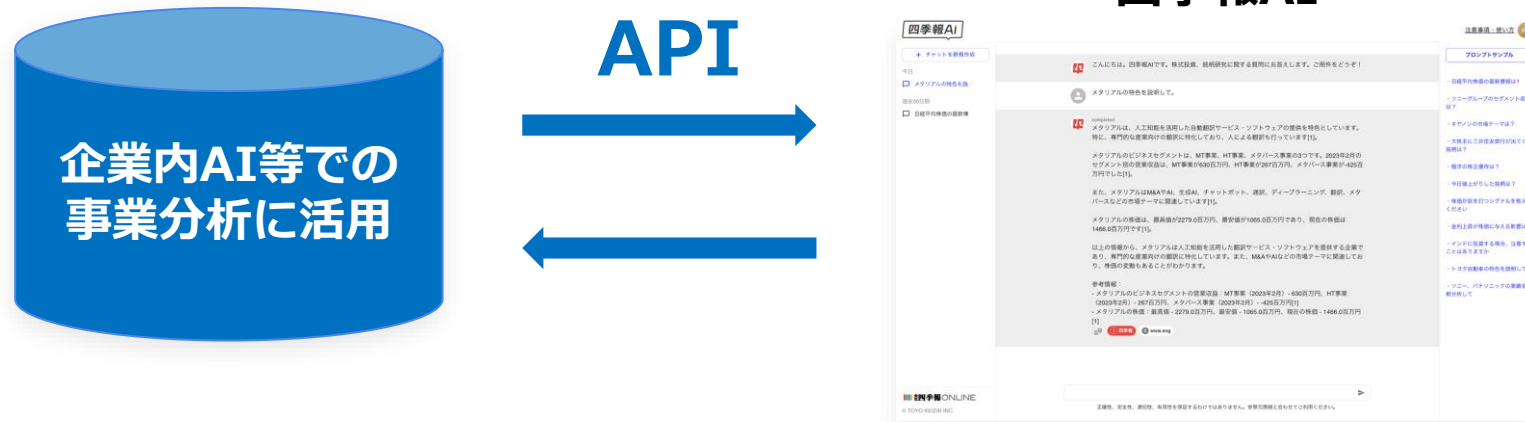
<https://www.youtube.com/watch?v=rj0v7ZRsqVI>

Local Voice Recognition

はい、それでは、ローカル音声認識テストを開始します。
このシステムはインターネットに接続されていません。
皆さま、おはようございます。
本日はご来場いただき誠にありがとうございます。
代表取締役兼会長兼社長の山田太郎でございます。
私が本総会の議長を務めます。
よろしく願い申し上げます。
それでは、ただいまから2024年8月期定時株主総会を開会いたします。
本日の議事の円滑な進行のため、議長である私の指示に従っていただきたく、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。
ご質問は、報告事項及び各議案のご説明の後にお受けし、その後、第1号議案及び第2号議案を連続して採決します。
本総会における議決権の個数は、本総会の株主様のご出席及び、昨日までの議決権行使文により、本日の全ての議案の審議に必要な定数を満たしております。
それでは、報告事項の



四季報AIのAPI提供で革新的な事業分析を実現。 生成AIとの連携で、企業情報活用の新時代へ。



当社と東洋経済新報社様が共同開発した「四季報AI」がAPI接続可能になりました。企業の社内生成AIによる事業分析に信頼性の高い市場データを統合し、事業戦略立案の精度向上と競争力強化を実現します。

四季報AI API 外部接続開始

東洋経済新報社と提携し、「四季報AI」へのAPI接続提供を開始。四季報AIの膨大な企業情報と市場情報のAIによる分析結果を利用可能になりました。生成AIによる事業分析に市場データを統合し、事業分析に大きな革新をもたらします。

市場データ分析 × 専門文書AI

当社専門文書AIとの知識融合により、業界特有の知見も活用した多角的な分析を実現。専門文書AIソリューションが、AI活用による企業経営の高度化を強力に支援します。事業成長を加速させ、競争力強化に貢献することで顧客企業のDXを推進し、新たな価値創造を支えます。

Metareal AI LLM 2 - 複数モデルの連携で実現する、 企業の課題解決に特化した次世代AIオーケストレーションシステム

Medical LLM

M こんにちは。私は、主に製薬関連の学習をしたAIアシスタントです。ご用件をどうぞ。

U 心房細動患者におけるアスピリンの脳卒中予防効果は、直接作用型経口抗凝固薬（DOAC）と比較してどの程度か？詳細な検討をして回答してください。

M choosing model using langrila...
わかりました。この問題に対して詳細な検討を行いますので、少々お待ちください。検討結果は後ほど提示させていただきます。

私の速やかな調査の結果、以下のことが分りました。

心房細動患者における脳卒中予防において、アスピリンよりも直接作用型経口抗凝固薬(DOAC)の方が効果的であると示されています。DOACsは出血のリスクが低く、ワルファリンと比べても優れている可能性があります。しかし、高齢者ではアスピリンとDOACsを比較した場合、DOACsの方が出血リスクが高い可能性もあります。

この件に関する包括的な医学論文は次のとおりです。

【心房細動患者における抗凝固療法の比較】

序論 心房細動は脳卒中の主要なリスク因子であり、適切な抗凝固療法が予防に重要である。従来はワルファリンが第一選択薬とされてきたが、近年直接作用型経口抗凝固薬(DOAC)の使用が増加している。

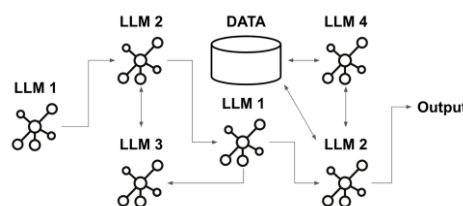
DOACsとアスピリンの比較 複数の臨床試験において、DOACsはアスピリンより脳卒中予防効果が高いことが示されている。DOACsはまた、ワルファリンよりも出血リスクが低い可能性がある。一方、高齢患者ではDOACsの方がアスピリンよりも出血リスクが高くなる可能性があり、慎重な評価が必要である。

まとめ 全体としてみると、DOACsは心房細動患者の脳卒中予防においてアスピリンより優れている可能性が高い。しかし、個々の患者においては、年齢、合併症、薬物相互作用などのリスクを慎重に評価し、最適な治療法を選択することが重要である。

以上の結果を調査結果の結論ですが、この問題に対してはさらに広範な検討が必要と見られます。

This chatbot can make mistakes. Please consider reviewing important information.

Metareal AI LLM 2



異なるアーキテクチャや学習データを持つ多様なLLMをAPIやプロトコルを介して動的に連携させることで各モデルの入出力や内部状態をリアルタイムで監視・制御、タスクに応じて最適なモデルの組み合わせとパラメータ調整を行います。単一モデルでは困難な複雑なタスクを、複数モデルの協調動作で高精度に処理し、転移学習やfine-tuningにより、企業の業務に特化したドメイン知識を各モデルに効率的に統合します。

**「Metareal AI LLM 2」は、複数LLMの連携と
業界特化型チューニングにより、専門文書AIとの親和性を高めた
次世代AIオーケストレーションシステムです。**

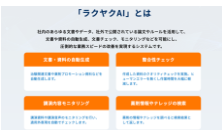
Metareal AI LLM 2は、AIの企業活用を大きく前進させるシステムです。複数LLMの連携により、単体モデルの限界を超えた高度な課題解決を実現。さらに、業界特化型チューニングにより、専門文書AIとの親和性を高めることで、企業の業務に直結したAI活用を可能にします。製薬や市場分析から始まり、順次他業界へ展開することで、あらゆる企業のDXを加速させるでしょう。当社の取り組みは、AIが企業の競争力の源泉となる未来を切り拓きます。

AIが自律的に構築する、超ニッチニーズに応えるハイパーローカルシステム 専門文書AIとは対極の、AIファースト事業のロールモデルの構築を目指します。

専門文書AI

企業の具体的な課題にカスタム

「ラクヤクAI」とは



MAI LLM 2



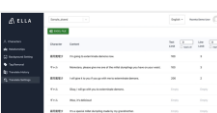
整合性チェッカー



四季報AI / API



キャラ翻訳AI



オンプレ音声認識

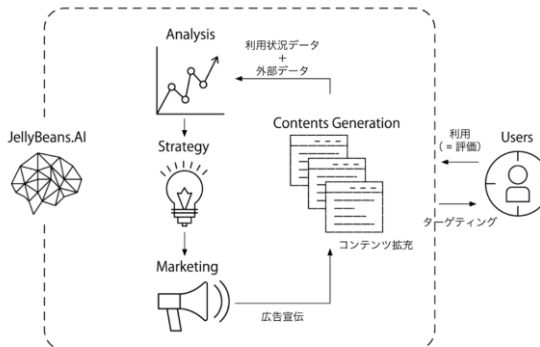


専門文書AIは、2B向けに特化した徹底的なカスタムメイドサービス。各企業の業務や扱う文書の特徴を深く理解し、AIモデルを最適化。これにより、企業ごとに異なる複雑な課題に、柔軟かつ効果的に対応。



AIが自律的にバリューチェーン全体を構築・運用し、超ニッチな2Cニーズに応える、実験的システム

バリューチェーンの自律構築



JellyBeans.aiは、AIが自律的にマーケティング施策を策定し、一人一人のニーズにジャストフィットするサービス提供を目指す革新的なシステムです。大規模言語モデルと強化学習により個人の潜在ニーズと嗜好を深く理解し、AIエージェントが商品やサービスの訴求点、価格設定、プロモーション手法を個人ごとに最適化。さらに、ニーズに合わせた新商品・サービス開発も自動化し、超ニッチ領域にも効果的に対応。真のパーソナライゼーションを実現し、顧客満足と新市場開拓を図ります。

JellyBeans.aiは、Metareal AI LLM 2による複数の大規模言語モデルの組み合わせを活用。個人のニーズを動的に理解し、最適なサービスを自動生成。マルチエージェントにより、サービスの作成から提供までのバリューチェーン全体をAIが自律的に運用します。継続的な学習と適応により、常に進化し、新たなニーズにも柔軟に対応。この革新的なアプローチにより、人的労力を最小限に抑えつつ、超ニッチなニーズにも応える状態を目指します。

2B特化 / 徹底したカスタムメイド

専門文書AIは、企業の現場の具体的な課題に対し、当社専門チームによる徹底的なカスタマイズで対応。これにより、企業の業務に直結した高度なAI活用を実現し、大きな価値を提供します。

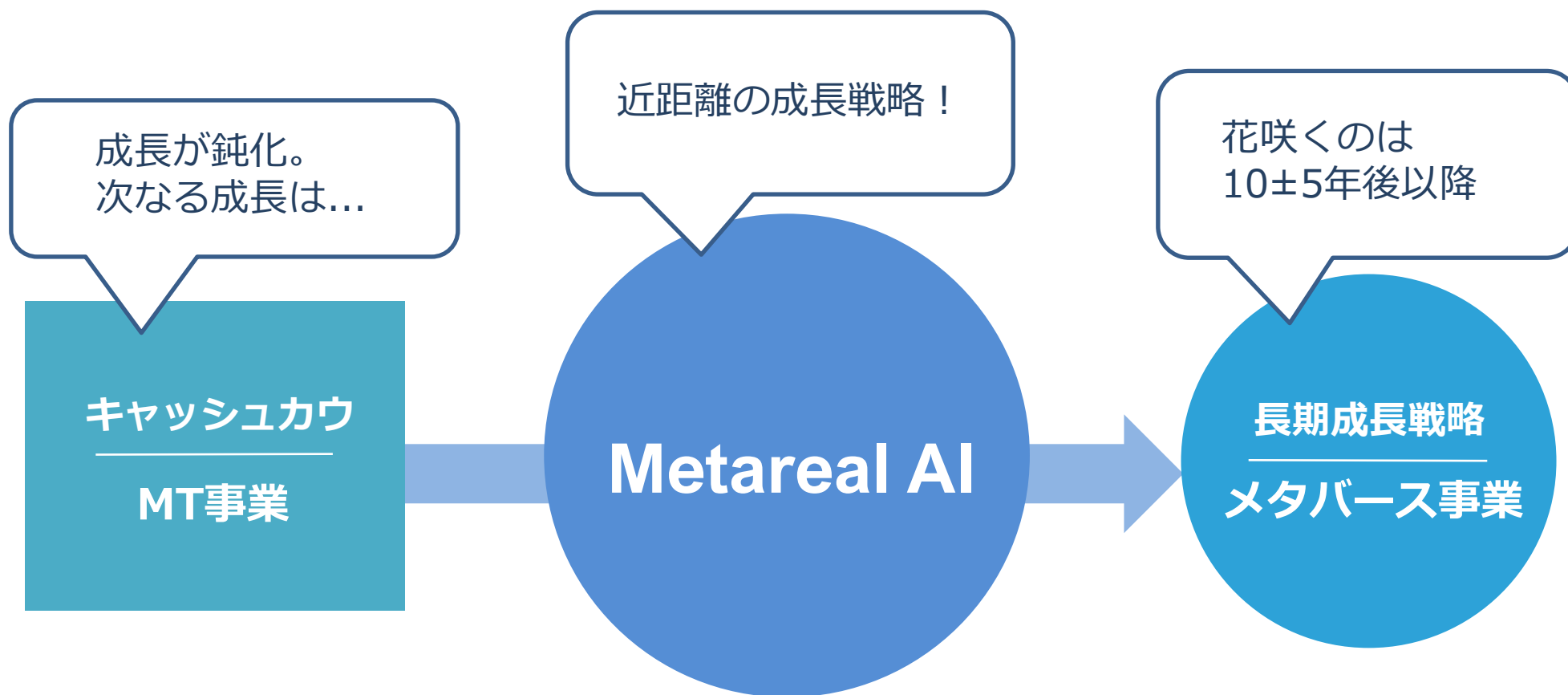


2C特化の超ローカライズ / サービスほぼすべてをAIが運用&生成

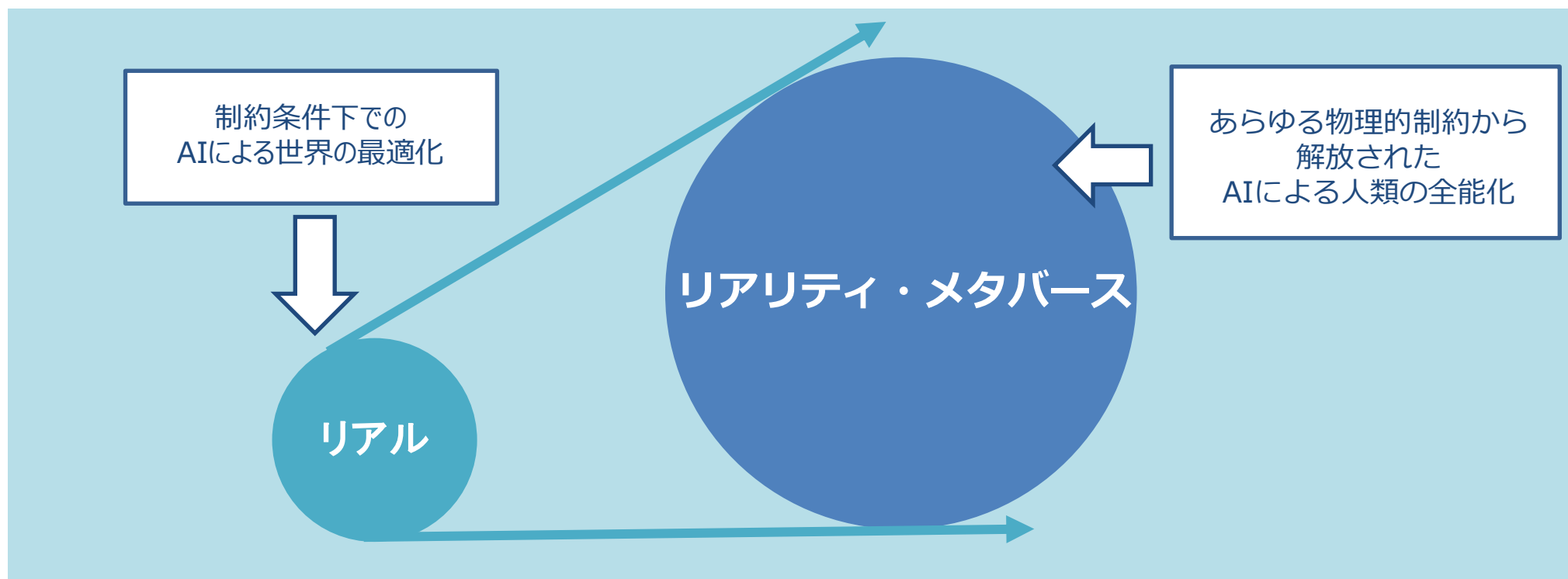
JellyBeans.aiは、2C向けのハイパーローカルサービスをAIが自動的に運用・生成するシステム。世界中の個人のバラバラなニーズをAIが察知し、人的労力なしで超ニッチなニーズにも対応。AIによる自律的なサービス提供を実現します。



長期成長戦略（メタバース）



メタバースを長期戦略として残す理由



AI翻訳によって人々を言語的ハンディキャップから解放し、生成AIによって単純作業の苦役から解放したのち、当社がなすべきミッションは、身体機能と物理的制約からの解放。

当社がこれまでに、そして今この時も、全力で取り組むAI技術は、人類にメタバースという新たな世界が解放された時、真の力を発揮する。

様々な制約に縛られたリアル世界においてさえ、これほどまでに人類に力を与えるAI技術を、すべての制約から解放されたメタバース世界と融合させ、人類に真の創造の翼を与えることが当社の目標。

第1の特徴

世間一般のメタバースがアンリアル（ゲーム・CG・アニメ）が中心であるのに対して 当社はリアル（実生活・実写）をコンセプトとしてポジショニングしている。
「メタバース=アンリアル」と「AR=リアル」のブリッジ。

リアリティ・メタバース

第2の特徴

メタバーサー構想


ワールドを作成したりイベントを開いたりするユーザー（メタバーサー）による自律駆動のメタバース。

第3の特徴

AI x メタバース

当社のメタバースは「リアリティ・メタバース」が特徴。メタバーサーがワールドを自律的に生成しイベントや交流を行うプラットフォーム。

「どこでもドア」 <https://dokodemodoors.com/>
これを支えるのが、メタバースワールド自動生成等のAI技術群となる。

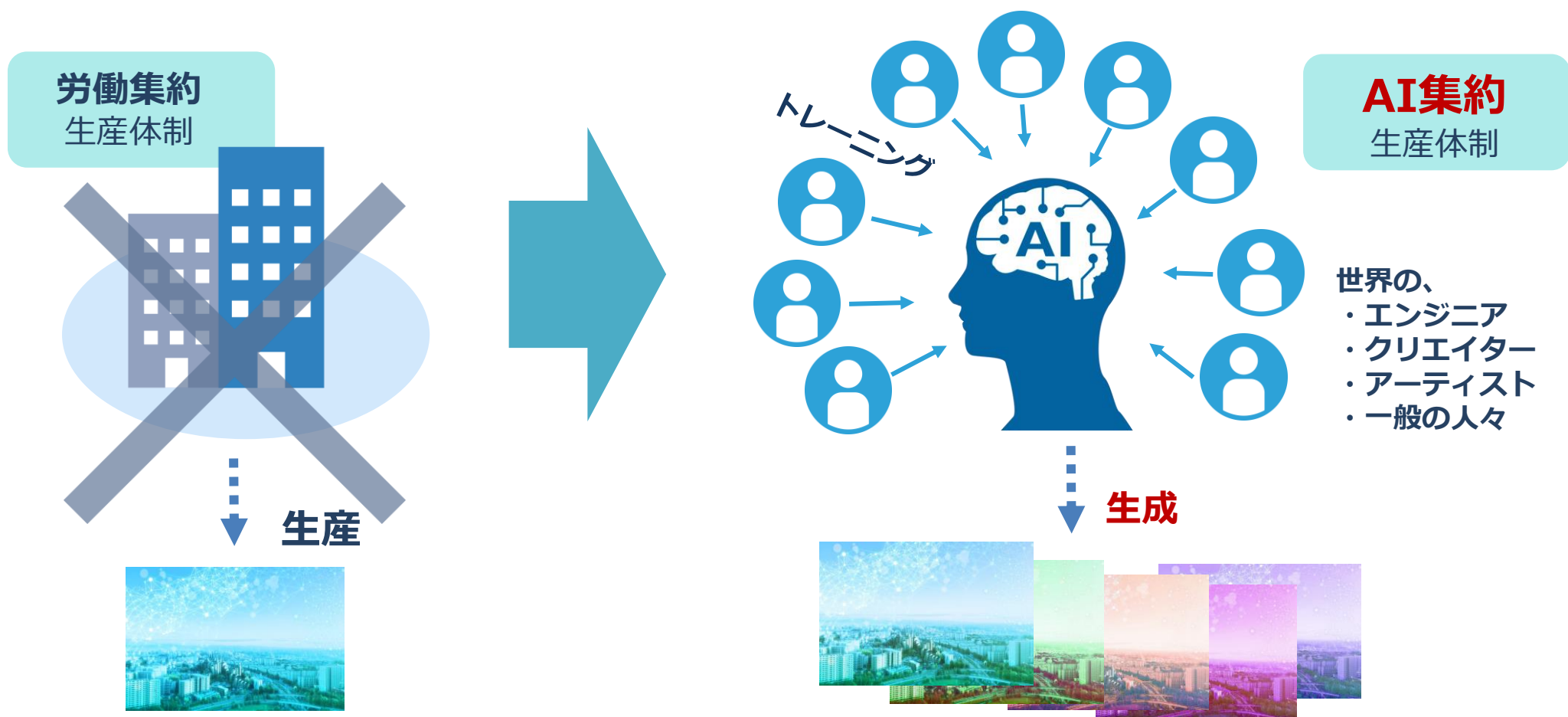


AI x メタバース

ワールドの生成から体験まで

AI集約的ワールド生産体制

当社はAI集約的なメタバースワールド生成を採用。世界のエンジニア、クリエイター、アーティストたちはAIのトレーニングを通して、また、一般の人々はAIを利用して、それぞれの創造性を発揮する。労働集約的な作業は不要になり、膨大かつ多様なワールドがAIにより自動生成される。



各技術の紹介

Project Genesis

発表済

「Genesis」はAIを用いたメタバースワールドを自動生成するジェネレーティブAIで、当社を象徴するコア技術に位置付けられる。当社の膨大なワールド映像資産を活用し、高速に高精度なワールドを生成出来るよう鍛え上げ、無限に広がる豊穡なメタバース空間を提供する。



https://www.youtube.com/watch?v=qgG50wht_fk

Project Dimensions

「Dimensions」は、2次元の360度映像を3次元化し、さらにその中で自由に動き回れるようにするためのAI技術。通常、360度カメラで撮影された映像は、撮影時のカメラ位置で視点が固定されるが、「Dimensions」がその課題を解決する。



https://www.youtube.com/watch?v=IYA1kaM_yP8

GenesisとDimensionsの統合



「Genesis」で生成された2次元の世界空間を、「Dimensions」で3次元化し、世界内を移動可能とすることに成功。さらに、世界と世界をシームレスに繋げる技術を開発することで、無限に移動可能な広大な「リアリティ・メタバース」を創出する。

<https://www.youtube.com/watch?v=2uduNpZ-1kU>

2D映像をメタバースに転生 『Diveverse』

『Diveverse』発表。膨大な2D映像資産をメタバースに転生
SF映画の傑作「Metropolis」
を先端技術による没入型作品の
第一弾として公開



<https://youtu.be/OLKvzrKL0hM>

デジタルツインを自動で生成する AI受託開発ソリューション提供を開始

MATRIXでは2024年3月より次世代の3D空間構成技術「Gaussian Splatting」を利用した受託開発ソリューション提供を開始いたしました。

従来手法のデジタルツイン構築としては「3D レーザースキャン」「平面キャプチャ画像の組み合わせ」が存在しましたが、前者は手間とコスト、後者は視点・視野に制限があるなどの課題がありました。

そこでMATRIXは、最先端のGaussian Splatting技術を活用して、特別な機材や追加の作業が不要な、スマートフォンで撮影した動画からAIがリアルなデジタルツインを自動で生成するソリューションを開発しました。

当技術は、建設、不動産、製造業などの業界における需要が見込まれるため、これらの産業向けに提供を開始しています。

受託開発ソリューション ユースケース

これまでMATRIXは実写の360度映像をベースにしたメタバース空間共有プラットフォーム「どこでもドア」の開発と運営を通じて、法人からメタバースに関する様々な相談や問い合わせを受けてきました。その内容を考慮し、今回のAI技術は以下のようなユースケースを想定しています。



不動産物件の内見

遠隔地からまるで現地で住宅を内見しているようなVR内見



山間部の橋梁建設の完成形を確認

動画から生成したVR空間内に図面から生成した橋を合成、完成後の橋の上を体験



プラント設計のスプール図レビュー

プラント設計の段階で事前に2D図面からVR空間内でリアルな完成形を確認する



工場内機械設置の事前確認

工場内に機械を設置する場合の位置などをリアルな状態で事前に確認できる

2つの受託開発ソリューション

受託開発ソリューションとしては、不動産の内見案内向け「不動産内見VR」、そして建築業向けの「建築VR」を進めております。



スマートフォンで撮った動画からAIがVR空間を生成 不動産内見VR

これまでの内見用のVRは、360度カメラで外観や物件内を撮影し編集という手間とコストのかかるものでした。物件数が増えるほど作業量も増えるため、内見VRを取り入れたいと思っている不動産業の方でも導入を躊躇っているのが現状だと思われます。

MATRIXの不動産内見VRは、スマホで撮影した物件の動画を入力するだけでAIが瞬時にVR空間を生成。完成したVR空間ではまるで実際に物件の室内を歩いているかのような、リアルな内見を体験することができます。



AIが2D図面からVR空間を生成 建設VR

AIが簡単に2D図面からVR空間を生成。着工前に完成後の構内を歩き回り、その目で仕上がりを確認できる体験ができます。



搭載機能

受託開発ソリューションで生成したVR空間には次のような機能を搭載しております。
顧客からの要望によっては機能の追加も検討予定です。



ウォークスルー

メタバース空間内を自由に歩行



会話/Chat (議事録)

空間内での会話を全て議事録にして保存



PC画面共有

PC画面を表示して補足説明



マルチプレイ

複数人（顧客と販売員）が空間と一緒にいる



AI音声自動翻訳

メタバース内の会話を全て自動音声翻訳



2025年2月期 業績予想

2025年2月期連結業績予想

◆連結業績予想

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益	
	百万円	%	百万円	%
2025年2月期	4,946	18.4	412	△ 44.8

◆セグメント別業績予想

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益	
	百万円	%	百万円	%
2025年2月期				
AI事業	3,600	17.8	519	△ 44.5
HT事業	1,146	2.6	210	44.7
メタバース事業	200	-	△ 200	-
その他本社費等	-	-	△ 118	-

来期は、一気に成長を加速することを最優先テーマとする。
 受注高で約35%、売上高で約20%の対前年成長を目指す。
 そのための先行投資としてマーケティング費用を中心に3.5億を投下。

ご留意事項

- 本資料は、株式会社メタリアルルの業界動向及び事業内容について、株式会社メタリアルルによる現時点における予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来展望についても言及しております。
- これらの将来展望に関する表明の中には、様々なリスクや不確実性が内在します。既に知られたもしくは未だに知られていないリスク、不確実性その他の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性がございます。
- 株式会社メタリアルルの実際の将来における事業内容や業績等は、本資料に記載されている将来展望と異なる場合がございます。
- 本資料における将来展望に関する表明は、2024年4月15日現在において利用可能な情報に基づいて株式会社メタリアルルによりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来展望に関するいかなる表明の記載も更新し、変更するものではありません。

本資料のお問合せ先
株式会社メタリアルル
グループ管理本部
メールでのお問合せ： ir@metareal.jp